

これは会議主催者による公式議事録ではありません。引用はお控えください。
This is not an official record by the meeting organizers. Do not quote.

タイトル	CDM の排出削減購入契約 CDM ERPA
主催	国際排出量取引協会 (International Emissions Trading Association (IETA))
日時	2005 年 12 月 3 日(土)13 時 ~ 15 時
主要討論者	<ul style="list-style-type: none"> • Rutger de Witt Wijnen (De Brauw Blackstone Westbroek) • Peter Zaman (Clifford Chance) • Roon Osman (Shell) • Coos Battjes (Nuon) • Corinne Boone (CO2e.com) • Eliano Russo (ENEL)
傍聴者	約 40 人 (民間事業者など)
目的	CDM 理事会の動向や事業者からの意向を反映した排出削減購入契約のための修正版フォーマットを紹介する。また、参加者との議論を通じて現行のフォーマットを更に利用者に使いやすい購入契約のための標準的なフォーマットにすることを旨とする。
発表の概要	<p>Rutger de Witt Wijnen 氏は、IETA により作成された CDM の排出削減購入契約書 (ERPA) フォームの紹介と得られた経験について発表した。フォームの作成は、炭素市場が序所に形成され始めた 2003 年より開始され、当時の主要バイヤーは世銀の PCF とデンマークであり、ERPA フォームには PCF の書式が使用されていた。民間セクターの関わりが増加することを受けて、IETA メンバーの産業界・法律家の協力を得て ERPA をドラフトした。現在、この書式を修正中であるが、今後参加者からの意見も聴衆して完成させたい。課題は、本来プロジェクトごとで応用すべきであるが、多くのプロジェクトにおいてこの書式がそのまま使用されていること、CDM に関わる状況が刻変化しており ERPA フォームにもその変更を逐一反映させる必要も生じること、買い手側の意向を強く反映していること、現行の CDM では買い手のプロジェクトに対する関わりが非常に重いことなどを挙げた。最後に、今後はデリバリー時期、救済法、支払いなどにおけるオプションを増やす必要があると説明した。</p> <p>Peter Zaman 氏は、IETA・ERPA フォームの修正について説明した。書式は、合意書部分、条件概要書部分、スケジュール部分、そして CDM タームのコードリスト部分で構成されることを説明した。今後は、アプローチ法に対するコメントや主要条項に対する総体的な合意を得ること、そして CDM 用語のドラフトなどに取り組んでいくと発表した。</p> <p>Roon Osman 氏は、CER の契約のスタンダード化について意見を述べた。同氏は、使い勝手が良く効率的な標準的 CER 契約は以下の 2 点を有すべきであると主張した。可能な CER 取引の全範囲をカバーすることと、CDM プロセスと制度上での変更点や改善点を定期的にアップデートすることの 2 点である。その理由として、</p>

これは会議主催者による公式議事録ではありません。引用はお控えください。
This is not an official record by the meeting organizers. Do not quote.

	<p>CER 市場は標準的ではなくユニークであるため、また収益の一部 (Share of Proceeds)の支払い時期や遡及クレジットの不確実性など CDM に関わる新たな決定事項が常に影響を与えることなどを挙げた。</p> <p>Coos Battjes 氏は、IETA・ERPA フォームについて以下のようなコメントを述べた。契約書内では、登録されたプロジェクトとそうでないプロジェクトの差別化を図ること、“デリバリー”の定義を含めること、国際取引ログ (ITL) が機能しない場合の条項も含めること、バイヤーの権利を明確にすること、不可抗力事項を取り除くこと (承認・登録プロセスや ITL など)、月別レポートを課すことなどを挙げた。</p> <p>Corinne Boone 氏は、過去の買取契約に至る経験から、買取契約の一連のプロセスで重要と思われることは初期の段階で買い手と売り手を結びつけ、一連の活動のためのチームワークを確立することであると述べた。また、スタンダードな契約は単なる雛形であり、状況により柔軟に変更を加えていくべきであると主張した。</p> <p>イタリアの電力会社 Enel S.p.A.の Eliano Russo 氏は、同氏が携わった ERPA 交渉の経験について語った。一連の交渉では、一度合意された内容を再度協議するなどの困難もあった。同氏は、以上の経験より ERPA も一連の活動の一部とみなしマネージすること、時間的なスケジュール管理を行うこと、ERPA 自身は両者の交渉の最終結果とは必ずしもならないこと、関わる全ての関係者に正当なインセンティブを与えることの重要性を指摘した。</p>
質疑応答	<p>Q : 環境に対する債務をどう考えるか</p> <p>A : UNFCCC が定義する“project participants”は必ずしも通常の投資における同義語と一致せず、判別できない。</p>
資料	<p>発表資料については、IETA ホームページより入手可能。 http://www.ieta.org/ieta/www/pages/index.php</p>

文責：弥富 圭介 (財団法人地球環境戦略研究機関)